



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.7.8 No. 4022

「1047名の後始末」を叫ぶ利敵分子!!

今、国労のなかで、「ごく普通の労働運動をめざして変化へのチャレンジ」と題する文書が流布されている。発行者名は記されていないが、国労内右派グループの手による文書である。問題はその内容だ。当局や連合、果ては自民党などと通じて国労内部から国労を変質・転向させるという主張が延々と展開されているのである。

清算事業団の仲間を「後始末」?

最も典型的なのは、清算事業団闘争に関する主張である。この文書の作成者は、次のように言う。「国労のアキレス腱である採用差別事件については、相手方が行訴しても国労として中労委命令を受諾すべきであった。そのうえで、西日本井出社長・東海葛西副社長グループと連携し、……連合鶴尾事務局長コメントも活かし、連立政府に労使テーブルをサポートさせ、値切りを覚悟のギリギリの譲歩案で対置・解決をはかるべきである」「闘争団問題については、『時代の遺物』として終止符を打つべきである」「後始末には犠牲が必要だ」と。しかもこの文書は、何度か書き直されており、三種類の異文があるが、「自民党橋本政調会長と政策的なパイプを持ち」という一文が「西日本・東海、……」のくだりの前に挿入されているものまである。

一体これは、何という腐り切った主張か! 一〇四七名の仲間たちとその家族が必死の思いで解雇撤回に向けた闘いを闘っているその目の前で、「時代の遺物として終止符を打て」「後始末には犠牲が必要だ」と言い放つのだ。「値切りを覚悟のギリギリの譲歩案」どころか、被解雇者は、すべて切り捨てて犠牲にしろというのだ。しかもそれを、井出・葛西・橋本と連携し、パイプを持ってやろうというのである。さらに、「採用差別事件は国労のアキレス腱」——弱点だというのだ。冗談ではない! われわれは、このような「主張」をする連中の暗躍を断じて許すことはできない。

後始末して会社のパートナーに

しかし、さらに問題なのは、一体何のために、清算事業団の仲間たちを「後始末」してしまわなければならないのか、という点である。この文書は、先ほど引用した箇所が続いて次のように主張する。

「この道を選択する理由は、……国労が永久的に会社側のパートナーになりえなくなると同時に、今このチャンス逃すことになれば、新しい労使関係を中心としたJR内労働組合運動の再生の機会に完全に失われてしまおうと考えるからである」と。——何と、「会社のパートナー」としてもらうためには、

清算事業団の仲間たちを後始末してしまおう以外ないというのである。

これでは、余りにも本音をあけ透けに語り過ぎたものでは、か、後で書き直されたものでは、「抵抗プラスパートナーシップの対抗組織への脱皮」だとか、「経営者、従業員、消費者の共同決定路線の実現」だとかという「理論」的粉飾が施されているが、結局、言いたいことは、「パートナーにしてほしい」ということに尽きている。

敵と味方が一八〇度逆転!

ただ、もう一点だけつけ加えれば、この文書の特徴は、「自民党橋本政調会長やJR西日本・東海経営陣、JR東日本改革派官僚との勉強会を実現させて、新しい経営陣づくりとまともなごく普通の労働者による大同団結に国労として寄与する」と述べる一方で、「JRと平和」の癌は、我(国労)陣営の『左翼純粋原理主義』……私たちがこれといかに闘うか」と主張するなど、敵と味方、闘う相手と共に進む仲間を、完全に一八〇度逆転させてしまっていることである。そして、「国労東日本内良識派」などと称して、「○地本の△△書記長、□□地本△△副委員長、……」「JR連合の若手グループ」など、「ネットワークを拡げる」具体的なグループが個人名まで含めて

明記されている。

利敵分子の暗躍を許すな!

われわれは、「国労」の名を語りながら、国労解体・清算事業団闘争解体の先兵となり果てた利敵分子が登場したことについて、これを重視しなければならぬ。

最後に、われわれは、この利敵分子が、「私たちに必要な過去の栄光や憎悪ではなく、新しい創造的な未来」「社会的な視点から政策論争を起こす」などと、国労が七月全国大会で決定しようとしている「政策提言運動」とも合通する主張をしていることにも注意を喚起しておかなければならない。「政策提言」にかこつけて、このような輩がしゅん動しだすということだ。

今こそ、国鉄闘争を水路として、闘う労働運動の復権を勝ちとろう!

地域集会の成功かちとろつ

7・13千葉集会

千葉市民会館

7・15船橋集会

船橋東部公民館

18日